

MIYAGI's Forestry

みやぎの林業だより

236号

令和7年8月25日発行



◀みやぎの林業だよりバックナンバーはこちら

—— 伐採の届け出・森林の新規所有の届け出は、市町村へ ——

みどりのかけ橋キャラバン実施中！！



みどりのかけ橋キャラバンとは、県内「道の駅」等において、第48回全国育樹祭を知ってもらうためのPRキャラバンのことです。

キャラバンでは、「七タモニュメントの制作」、「木育ワークショップ」、「キッチンカーによる全国育樹祭カレーの提供」等、来場者の方々に楽しんでいただけるコンテンツを御用意しています！

キャラバンで制作する「七タモニュメント」には、宮城の「森」や「自然」に対する思い・願いが書かれた短冊が掲示されます。

PRキャラバン参加者の想いを連ねた「七タモニュメント」は10月5日(日)に行われる第48回全国育樹祭式典行事会場に展示します。

全国育樹祭HPや水産林政部公式Instagramで情報を随時発信していますので、是非御家族でお越しください！

●今後のスケジュール

日 時：9月13日(土)午前11時～(予定)
場 所：道の駅かくた(角田市)

日 時：9月27日(土)・28日(日)
午前11時～(予定)
場 所：あすと長町杜の広場公園(仙台市)



●開催時の様子



2025全国育樹祭
全育つーしん

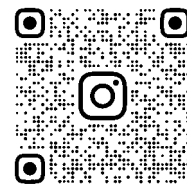
vol.6

全国育樹祭の
情報はこちらで
更新しています!!



全国育樹祭公式HP

・全国育樹祭とは
・記念行事関係
など



水産林政部公式
インスタグラム

・カウントダウンフォト
・各イベント等の様子
など

「育樹祭応援部」を発足しました！



この度、全国育樹祭を盛り上げる「育樹祭応援部」が結成されました！

結成に当たっては、「せんだいタウン情報 machico 編集部」、「COLORweb 学生編集部」、「khb 東日本放送アナウンサー」の方々に御協力いただきました。

育樹祭応援部の方々には、県内で活動しているみどりの少年団の活動や、「みやぎ森林・林業未来創造カレッジ」の研修内容を取材し、SNS等で体験レポートを書いていただくなど、全国育樹祭の情報を随時発信していただきます。

育樹祭応援部の皆さんと一緒に、本誌面を読んでいる皆さんも応援よろしくお願いたします！

テープカット…ではなく「丸太カット」！？

5月10日(土)にイオンモール新利府で「みどりのかけ橋キャラバン」キックオフイベントが開催されました。

キックオフイベントは、木育ワークショップの開催や、お花のプレゼント等により、1,000人以上の来場者となりました。御参加いただいた皆様ありがとうございました。

当日は、みどりのかけ橋キャラバンの開催を記念してテープカット…ではなく、なんと「丸太カット」を行いました！丸太には事前に切れ目を入れ、できるだけ簡単にカットできるように調整していました。

が、なかなか切り落とすことができず、担当者はハラハラしていました。最後は登壇者の皆さんで力を合わせて切ることができ、ホッと一安心。

宮城県で開催されるセレモニーでは今後「丸太カット」が一般的に！？なることを期待した担当者でした。

なお、今回の丸太や丸太の設置台は宮城中央森林組合様に御協賛いただきました。ありがとうございました。



みやぎの特用林産

きのこ、たけのこ、山菜、木炭に苔まで…森林からの恵みは木材だけではありません。宮城県の森から生まれる、「特用林産物」をPRする取組を御紹介します。

しもやつせたかこうがま 「下八瀬高幸窯」において 炭窯マルシェが開催されました

気仙沼市の下八瀬地区は、かつて炭焼きが盛んな地区であり、令和五年度にNPO法人リアスの森応援隊の隊員である中井氏（現なかい山業）が中心となって、炭窯「下八瀬高幸窯」が作られました。

「下八瀬高幸窯」では、定期的な炭の販売会などイベントを行っており、直近では令和七年四月に木炭や竹炭の販売会を主体とした「炭窯マルシェ」が開催されました。

本イベントでは、地域の方から譲っていただいた広葉樹や竹を材料に、炭窯で焼いた「地産地消」の炭（切炭・インテリア用等）の竹炭民芸品「八瀬のミニ炭たわら」の他に、地元下八瀬自治会の皆さんが生産した地元農産物の直売も行われています。

そのほか、天然酵母を発酵させた生地を竹に巻いて炭火で焼く「炭焼きパン作り体験（有料）」や「とっておきの野生動物写真展（無料）」など、回を重ねるごとに参加者を飽きさせない試みが企画されています。

中でも、炭焼きパン作り体験が特に人気であり、子供から大人まで自分の最高の焼き加減を

目指して、炭火に向けて黙々と竹を回して楽しんでいました。また、当日は元イタリアンシェフでもある中井氏による季節の野菜たっぷりの手作りミネストローネのお振る舞いもあり、寒空の中、焼きたての炭焼きパンと本格ミネストローネがベストマッチとなっていました。

今後も定期的に開催予定ですので、ぜひ、気仙沼市下八瀬地区にお立ち寄りください。

（気仙沼地方振興事務所 林業振興部）



木炭（切炭）



（上）炭焼きパン作り体験
（下）木炭（インテリア用）

「栗原苔フェスティバル2025

～栗原市誕生20周年記念～」開催

11月1日（土）に栗原市栗駒の栗駒山麓ジオパークビジターセンターを会場として、「栗原苔フェスティバル2025 ～栗原市誕生20周年記念～」が開催されます。

栗原地域で取り組んでいる「くりはらの苔」をPRするイベントとして、令和元年以降毎年開催されており、今回で7回目になります。

当日は、県内外の苔関連事業者や苔生産者などが集い、苔商品の展示販売や、例年人気がある苔テラリウム、苔玉づくりなどのワークショップを行うとともに、会場では、栗原地域の地場産品を販売する「くりはらマルシェ」も同時開催します。また、今年度の苔フェスは栗原市誕生20周年記念冠事業として開催され、当日会場には、栗原市誕生20周年記念撮影用看板の設置も行います。

初心者から苔愛好家、子供から大人まで年齢を問わず夢中になれる空間が広がります。小さな緑の世界をぜひ会場で体感してください。

今後も栗原地域の豊かな自然環境を活かし、地域の方々や各関係団体などと連携しながら、「くりはらの苔」の聖地化を進めていきます。

（北部地方振興事務所栗原地域事務所林業振興部）

本イベントの様子は、昨年撮影された県の林業職員PR動画「創造的林業のススメ CREATIVE FORESTRY」で、「I LOVE 苔」のキャッチコピーとともに紹介されています。動画はこちらから。



- 日時
11月1日（土）
午前10時～午後3時
- 場所
栗駒山麓ジオパーク
ビジターセンター
- 主催
全国苔フェスティバル
in 栗原実行委員会
- お問い合わせ
TEL 0228-22-2381
(北部地方振興事務所
栗原地域事務所林業振興部)

（上）苔フェス2025ポスター
苔で作られた栗原市マスコットキャラクター「ねじりほんによ」は会場にも。
（下）昨年度の会場の様子。会場ではテラリウムキットなども販売。



イーレ！はせくら王国に 木育広場がオープンしました

令和七年二月一日に本格的な木育スペース「里山ESCUOLA（エスクエラ）」が川崎町にオープンしました。エスクエラとはスペイン語で「学校」という意味を持ちます。

この施設は、廃校となった支倉小中学校を利用した「イーレ！はせくら王国」内にあり、宮城県産木材を使用した木製遊具を多数設置し、子供たちが遊びを通して木のぬくもりを感じることができ、施設となつています。県産のスギを使用したボールプールをはじめ、木製の冷蔵庫や電子レンジ、洗濯機等が並ぶまごころペース、キットを組み合わせて作るログハウスなど、多様な玩具を取り入れています。

木育広場の運営は、仙台市で木製の玩具等の販売を行う株式会社ユーロバスで、木育広場の開設に当たり、デザイン会社とともに多くの木製玩具をオーダーメイドで製作しました。同社は木育活動にも積極的に取り組んでおり、木材を利用したワークショップや移動木育広場の運営など、遊びを通して森の機能や木材の利用について子供たちに教える活動を行っています。

里山エスクエラは、オープンから四か月で六千九百人以上の来

場者を迎え、特に週末は多くの子供連れで賑わっています。また、県内外からの視察の受け入れや遠足での利用要望も多数あるそうです。

株式会社ユーロバスの代表を務める小松氏は、木育活動を通じて県南の地域振興にも貢献したいと話し、今後は定期イベントの開催なども企画しており、更なる木育活動の普及に意欲を見せています。

イーレ！はせくら王国には木育広場のほか、地場産品の販売やカフェもあるため、立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

★木育広場の開設には令和六年度補助事業「みんなで広げる「木育」活動推進事業」が活用されました。

（大河原地方振興事務所
林業振興部）



2月に新設された木育広場

県産広葉樹のプロモーションについて

ウッドショックの影響により、近年、国内の家具・建材メーカーが、原料を輸入材から国産広葉樹へシフトする動きが見られます。一方で、県内の山林から搬出される広葉樹は、ほとんどが単価の安いチップ・パルプ用材として流通しています。

そこで、県では、県産広葉樹の利用拡大を図る取組の一環として、「県産広葉樹プロモーション事業」を実施しました。一般消費者にはなじみの薄い県産広葉樹を使った製品の魅力を、デジタルパンフレットやSNSで広く発信したほか、県産広葉樹を使った木工クラフトワークショップを通じて、県産広葉樹を身近に感じていただける機会を提供しました。

パンフレットでは、「広葉樹」とは何かという基本的な内容から始まり、原料の調達から家具や玩具へ生まれ変わるまでの工程と、各段階でどのような苦労や工夫があるのかを関係者のインタビューを織り交ぜながら紹介しています。また、村の家具屋木響の「丸座のコメ椅子」、kamoneの「キーホルダー」、うらにわあとりえの「にゃんこけし」、木のおもちゃいつきの「うさつみ」を写真つきで掲載し、地域の木を活かした商品を、木の温もりが感じられるようにまとめています。

これらの内容を地域情報サイトの特集記事とし

て掲載したほか、商品製作の様子を動画撮影し、動画広告として発信しました。視覚的にアプローチすることで印象に残りやすく、動画からパンフレットへ自然に誘導することで、より多くの方に情報を届けることができました。

今後も広葉樹資源の利用拡大に向け取り組んでまいります。（林業振興課）



地域の森の恵みを
遊び心あふれる木製雑貨へ

広葉樹の多様な色や木目の個性を生かし



村の家具屋木響の「丸座のコメ椅子」



kamoneの「キーホルダー」

「にゃんこけし」
木のおもちゃいつきの「うさつみ」



うらにわあとりえの「にゃんこけし」

パンフレット
はQRコード
からご覧いただけ



登米市市制施行20周年記念「市民参加の新たな森林づくり」

登米市と当所が共同開催する植樹イベント「市民参加の新たな森づくり」が、登米市津山町の市有林を会場に開催され、登米市内外から155人が参加しました。

今年は登米市市制施行20周年、第48回全国育樹祭の記念行事として、植樹祭に加えて、木工ワークショップや市内パフォーマーによるステージイベントなど、例年よりも内容を充実させた催しとなりました。

近年は登米地域でも植栽木の食害が増加傾向にあるため、鹿が食べにくいカラマツの苗木を選定し、約1000本を準備しました。

当日は開始直前まで激しい雨に見舞われましたが、集合時間にはすっかり上がり、人にも苗木にも良いコンディションの中、津山町森林組合職員の実演指導に続き、参加者は思い思いに鍬を使って1人10本以上のカラマツを植栽していました。

今回のイベントは親子連れが多く、急な斜面にも元気にチャレンジする熱心な姿が随所に見られ、「家族みんなでいい汗をかきながら、造林体験に参加する。」森林や林業への興味を持つきっかけづくり、「木育」イベントとしても良い取組となりました。

今回の参加者には、今後もカラマツの成長を見守っていただき、成長していく森林が発揮する機能や脱炭素社会への貢献など、様々な役割にも興味・関心を広げてもらいたいと思います。

(東部地方振興事務所登米地域事務所林業振興部)



(上段左、右)
指導を受けながら植栽に取り組む参加者
(中段)参加者の集合写真
(下段)
イベントを盛り上げた登米市マスクド軍団

みやぎ海岸防災林・森林づくりイベントの開催について

東部管内の東松島市大曲地区では、地域に愛され大切にされる海岸防災林を目指して、大曲まちづくり協議会及び東松島市、県の3者が共催となって市民参加型の海岸防災林イベントを開催しています。

今年度は5月25日(日)に開催され、子どもたちや保護者など約40人の住民が参加しました。

当日はあいにくの天気となり、参加者が海岸防災林を整備する作業は中止となりましたが、大曲まちづくり協議会の皆さんが平成19年度に植栽し、津波被害を逃れたクロマツ林の成長を確認するとともに、代表者による枝落とし作業の見学などを行った後、室内でむすび丸や第48回全国育樹祭のシンボルマークを入れたフォトスタンドのほか、県産スギを使ったコースターの作製を行いました。

今後も、地域に愛され大切にされる海岸防災林を目指し、地域の方々と連携しながら取り組んで

まいります。(東部地方振興事務所林業振興部)



(上)
成長したクロマツ
防災林を訪れる
参加者
(下)
県産スギを使っ
たフォトスタンド
制作

森林づくりの取組

県内の森林の公益的機能を保ち、持続可能な形で利用するため、県が行っている取組を御紹介します。

県の低コスト再造林の推進について

森林が持っている水源涵養機能などの公益的機能を持続的に発揮するためには、森林資源を「使う→植える→育てる→使う」という循環利用を図ることが重要です。しかし、主伐収入に対して再造林の経費が大きく、森林所有者の手元に収入が残らないなどの理由から、県内の再造林率は20%から30%程度にとどまっています。

そのため、県では一貫作業や下刈りの回数の削減などによる再造林費用の削減を推進していますが、それら以外で現場の工夫で実現できる省力化・低コスト化の手法の検証等を進めるため、令和3年度より森林組合や事業体自らが提案・実践する低コスト再造林への支援を行いました。ここでは、令和5年度に実施した事例を御紹介します。

【事例紹介】

丸森町森林組合では、保育経費削減のため、ブッシュクラッシャーにより林地残材や伐根を粉砕して林地を整え、防草シートを設置し、雑草木の侵入を防ぐ取組を実施しました。

併せて、あらかじめラジコン式刈払機等の導入を考慮した間隔で植栽することで、下刈りの省力化を目指しました。その結果、下刈りの人工数を約25%、下刈り経費を約34%削減することができました。また、伐根などを地拵えの際に処理したことにより、林内の歩行や作業が安全になりました。

事業の成果については、他の事例とともに、宮城県ホームページで紹介しております。

皆様が現場で取り組む低コスト再造林の実践に御活用いただければ幸いです。
(森林整備課)



(左)
伐根を粉砕するブッシュクラッシャーの様子

(下)
低コスト再造林実践提案事例HPはQRコードから御覧ください。



里山林活性化による多面的機能発揮対策事業について

県では、地域の里山林の多面的機能の発揮や、山村地域の維持・活性化を図るため、里山林の整備・活用の取組を支援する「森林・山村多面的機能発揮対策交付金」を活用しています(県事業名「みんなの森林づくりプロジェクト推進事業」)。

本交付金は、令和7年度に国の法令が改正され、国事業名が「里山林活性化による多面的機能発揮対策交付金」へ変更するとともに、支援メニューの再編・新設及び一部内容の改定が行われました。

支援メニューについては、これまでの地域環境保全タイプと森林資源利用タイプが、「地域活動型(森林資源活用型)」と「地域活動型(竹林資源活用)」に再編されました。また、地域活動型の採択要件として、資源活用となる素材としての利用(丸太や竹、特用林産物など)が、原則要件として追加されました。また、未活用木材の利用や複業としての里山林の活用のため、支援メニューに「複業実践型」が新設されました。原則針葉樹人工林での間伐(伐採、運搬、処理)が対象となり、採択要件として、法人格の保有、一定以上の活動日数及び搬出量の目標設定が必須要件となっています。

県内の活用状況は、令和7年度は22組織からの申請で、内1組織が新規活動組織となっています。

メニューごとの活用要望としては、地域活動型(森林資源活用)に約43ヘクタール、地域活動型(竹林資源活用)に約9ヘクタールの要望があり、全て採択されました。

活動組織の皆様には、交付金による活動の成果を数値で示していただくためのモニタリング調査を実施し、目標達成度と改善策を検討した上で、モニタリング結果を報告していただきます。

新規に事業の活用を希望する場合は、各地方振興事務所林業振興部又は、事務局である公益社団法人宮城県緑化推進委員会に問い合わせ願います。

事業の活用に伴う概要、要綱要領及び各種申請等様式等は、下記QRコードより御確認ください。(林業振興課)



(左)
事業メニュー
(右)
事業申請から完了までの流れ
(右下)事業HP、詳細はこちらから。

～林業・木材産業者への金融支援について～

○林業・木材改善資金

林業・木材産業経営の改善や、労働災害の防止、林業従事者の確保を目的に、事業者の皆さんの創意工夫を生かした様々な取組に対し、必要な資金を無利子で貸し付ける制度です。

【貸付対象事業】

- 新たな林業部門、木材産業部門の経営の開始
- 林産物の新たな生産・販売方式の導入
- 林業労働に係る安全衛生施設・福利厚生施設の導入

【貸付対象者】

- 林業に携わる方
(森林所有者、森林組合、素材生産業者等)

- 木材産業を営む方

(木材製造業、木材卸売業、木材市場業)

※新規参入も対象となります。

【貸付限度額】

林業事業者			木材事業者
個人	会社	団体	
1500万円	3000万円	5000万円	1億円

【償還期間】

10年以内(うち据置期間3年以内)

※法律の特例により、償還期間や据置期間が延長される場合もあります。

○木材産業等高度化推進資金

木材関連産業の合理化や林業経営の改善を図るため、低利な運転資金を貸し付ける制度です。資金を借りるためには、計画を作成し、知事の認定を受ける必要があります。

【貸付対象資金】

- 素材生産、素材・木材製品引取、素材加工、造林、素材生産の請負などに必要な資金

【貸付対象者】

- 林業に携わる方
- 木材産業を営む方

※新規参入も対象となります。

【必要な計画】

- 林業経営改善計画
- 合理化計画
- 木材安定供給確保事業計画

【貸付利率】

- 短期資金：1.7～2.0%

- 長期資金：1.85～2.4%

※信用基金の補償付きの場合は、貸付利率から0.4%減じます。

【貸付限度額】

- 資金内容に応じて5000万円～5億円

！ 担保及び債務保証

- 民間金融機関から融資を受ける際に、出資金及び保証料を支払うことで、農林漁業信用基金による債務保証を受けることができます。
- 担保及び連帯保証人が必要となる場合もあります。

相談窓口

申請要件の確認や、申請書等の作成方法など、御不明な点は県へお気軽にお問い合わせください。

融資の具体的な手続については各融資期間へ、情報保証については、農林漁業信用基金へお問い合わせください。

【申請方法等】

- 最寄りの県地方振興事務所(地域事務所)林業振興部林業振興班
- 県林業振興課調整班

制度の詳細や様式については県ホームページを御覧ください。

林業制度金融について
HPはこちら



林業信用保証の御案内

(独)農林漁業信用基金は、林業・木材産業を営む皆様が融資を受ける際に、その債務を保証することにより経営をサポートする「林業信用保証」を提供しています。豊富な保証実績と行政や関係団体との強いネットワークによって、事業者の皆様や融資期間等に対して様々な情報提供も可能です。ぜひ、お気軽に御相談ください。

【保証の対象資金】

林業・木材産業の事業用資金全般
(例)苗木・立木の購入費、燃料費、人件費の運転資金、建物・林業機械・木材加工機械の整備等のための設備資金等

【保証料】

- 保障の提供に当たり、財務内容に応じた保証料が必要です。
- 保証料率は年〇・一五～一・八パーセント以内と低く設定しています。
- 原油など価格高騰対策や自然災害からの復旧、新規創業への支援等は、最大五年間の保証料免除が可能です。



【お問い合わせ】

林業信用保証
管理部

☎ 03 (3434) 7825



農林漁業信用
基金HP

大崎市産コシアブラの 安全・安心な出荷がスタートしました！

コシアブラは、香りとコクが豊かで、天ぷらや混ぜごはん、炒め物などに料理すると美味しい人気の山菜です。

大崎市産のコシアブラは平成二十四年五月九日に出荷制限指示を受け、出荷ができない状況でしたが、一部条件を満たしたコシアブラについては令和七年四月二十五日付けで出荷可能（二部解除）となりました。

①出荷者は、採取・出荷者認証登録をしていること。（出荷者名や採取地、出荷先などを登録し、流通を明らかにします。）
②非破壊検査機で測定し、出荷可能な放射性物質濃度であること。

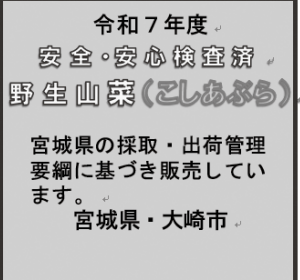
全量検査により放射性物質濃度を測定し、安全が確認されたコシアブラのパッケージには、シールを貼付し、検査済みであることを表示します。

今春には、これらの条件をク

リアし、安全性が確認されたコシアブラを直売所等で販売できました。

今後とも確実に検査を実施し、安全安心なコシアブラを販売できるように出荷者の方々や直売所、大崎市と連携して適切な出荷管理を行ってまいります。

来年も検査済みシールを目印に、春の味をお楽しみください！
（北部地方振興事務所 林業振興部）



(右)実際に販売されたコシアブラ
(上)安全なコシアブラに貼付される検査済シール

危険な盛土を規制する盛土規制法について

令和三年七月に静岡県熱海市で発生した大規模土石流災害を契機に、宅地造成等規制法が改正され、「宅地造成及び特定盛土等規制法」（通称「盛土規制法」）が、令和五年五月に施行されました。

県では、盛土規制法に基づき、令和七年五月二十三日付けで仙台市を除く県内全域を法に基づく規制区域に指定しました（仙台市内は仙台市が指定）。

規制区域は、市街地や集落など、人家などがまとまって存在し、盛土等が危害を及ぼしうるエリアである「宅地造成等工事規制区域」と、市街地や集落等から離れているものの、地形等の条件から危害を及ぼしうるエリアである「特定盛土等規制区域」で、それぞれ地形を考慮し、区域内で盛土等を行う場合、盛土等の高さや面積によって、あらかじめ知事の許可が必要となります。

また、盛土規制法には、危険な盛土等の再発防止を目的とした厳しい罰則が設けられており、主に「無許可で盛土等を行った場合」、「虚偽申請・虚偽報告をした場合」、「中止命令などに従わなかった場合」等は、行為者に加え、その法人も罰則対象となるなど、監督責任が問

われる内容となっております。

今後は、林地開発許可制度における開発行為の目的のうち、採石法や鉱業法等に該当する「土石等の採掘」を除く全ての行為で盛土等を行う場合は、盛土規制法の対象となり、林地開発許可変更許可（含む）に併せ盛土規制法に基づく許可も必要となります。

変更許可を含む林地開発許可申請の窓口は、これまでどおり各地方振興事務所（地域事務所）林業振興部となりますが、盛土規制法の手続が必要な場合は、土木部建築宅地課または、各土木事務所（仙台市内で盛土を行う場合は、仙台市都市整備局宅地保全課）となっておりますので、林地開発を行う際には、区域内での盛土行為の有無を明確にし、無断で盛土等を行うことのないよう、お願いいたします。

（自然保護課）

〈盛土に関するお問い合わせ〉
宮城県土木部 建築宅地課
盛土対策班
TEL : 022-211-3246
URL : <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kentaku/morido.html>

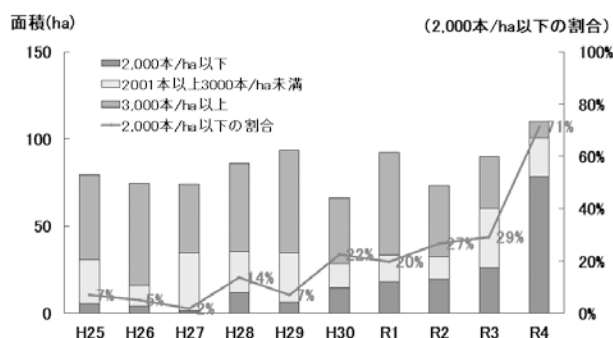


令和7年 林業試験研究の概要

今年度、林業技術総合センターは、11の課題に取り組んでいます。このうち政策的、重点、新規の6課題について概要を紹介します。

■低密度植栽されたスギの成長特性と材質に関する研究

今年度から始まった課題で、再造林の低コスト化の手段として低密度植栽への取組が進んでいることから、低密度植栽により成林したスギ林において毎木調査、樹幹解析、原木の節・強度等の調整を行い、低径級分布、個体の成長や材質特性について調べています。



植栽本数別造林実績(国庫補助)

植栽密度ごとの造林実績。低密度な植栽(2000本/ha以下)の割合が近年高まっていることがわかる。

■建築物木造・木質化推進のための県産スギ部材の開発

令和5年度から始めた課題で、今年度で最終年度となります。建築物の木質化のため、資源が充実しつつあるスギを歩留まりよく利用する、非住宅分野に対応しうる低コストの木質部材の開発を行います。県内企業と連携した超厚合板を利用した高耐力木質面材を開発目標としています。

(※→左下記事「研究レポート」に関連内容を掲載)

■スギ特定母樹及びクロマツ第二世代品種の開発

平成27年度から始めた3期目を迎える課題で、従来よりも優れた生長量、剛性、通直性、雄花着生性の基準を満たすスギの第二世代品種(特定母樹)を選抜し、クローンを育成します。また、毒性の強いマツノザイセンチュウを接種して、より強い抵抗性を持つクロマツ品種の開発を目指しています。

■ハタケシメジ新品種の栽培技術の確立

宮城県のオリジナルきのこ、ハタケシメジ「みやぎLD2号」の後継品種(LD3号)の開発を進めています。地元からのニーズの高い露地栽培の現地適応試験と、菌株の性能維持管理技術の向上に取り組んでいます。

■宮城県におけるカラマツの生育適地の検証等に関する調査

合板用材として、カラマツの需要が高まっていることから、カラマツ造林の拡大に向け、現生する地形や標高などの環境要因を調査し、適地の条件などの指標の作成を目指し、県内各地のカラマツ林の調査を実施しています。併せて東北大学と共同で現生個体の遺伝子解析を行い、生育場所や形質などとの関係を調べています。

■雄性不稔(無花粉)スギ個体の作出と品種開発に関する研究

平成23年度から始めた課題で、国が開発した無花粉スギ「爽春」と県内精英樹との人工交配を進め、本県由来の雄性不稔(無花粉)スギ品種を開発し、国の品種登録及び挿し木苗の供給に向けて採穂園の造成を行っています。また、昨年度に採種したF2種子のコンテナ苗を育苗して、違う系統の無花粉スギ品種の開発にも取り組んでいます。

(林業技術総合センター 企画管理部)



◀(左)センター内のセンチュウ接種試験地

▼(中)ハタケシメジ新品種の栽培試験

▼(右)大衡不稔1号(仮称)の採穂園



研究現場の様子





みやぎ森林・林業未来創造カレッジ研修 スマート林業の推進に向けて

■みんなで分ろう

林業技術職員の研修会にて、「スマート林業を進めるための課題」をグループ討議したところ、若手からベテランの全てのグループがあげたのは、「得意な人、そうでもない人の温度差」でした。皆様の周辺ではないかがでしょうか。

■森林・林業

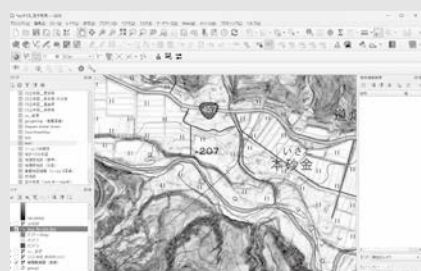
デジタルリテラシー向上研修

昨今、航空レーザー測量の微地形表現図のオープンデータ化の動きが活発です（G空間情報センターHPでの公開など）。微地形表現図とは、例えば森林で覆われた火山の噴火口や戦国時代の城郭などを識別することが可能となるもので、色の陰影で地形を表現する図です。そんな微地形図に地番図や森林資源のデータを重ねることができれば、境界確認や森林の経営管理の様々なことが直感的、効率的にできるのではないのでしょうか。

カレッジではそんな森林情報のデータ利用の研修を行います。専門用語の壁？大丈夫です。最初はだれでも初心者。私もその一人です。「誰もが分かるようになる」が目標です。（今年度の研修は実施済、来年も開催予定）

■スマート化の推進に向けて

「このドローン使ってる？」



(上)カレッジで使用する微地形表現図
(右)みやぎ森林・林業未来創造カレッジHPはこちらから



「森林データベースつてのがあんだけどマニュアルを読むのが既にハードルだなあ」

冒頭の研修会の討議からこんな光景が見えるのは私だけでしょうか。

カレッジでは、市町村・事業者の皆様のスマート林業の取組をサポートします。それぞれの現場で誰か分かる人がいる。そんな体制の構築を目指したいと考えています。

■スマート林業の各種講座

秋以降も森林調査やDX推進講座を開講し、全くの初心者から実践講座まで幅広く対応する予定です。詳しくは、みやぎ森林・林業未来創造カレッジのホームページを御覧ください（受付時期などは、随時御確認ください）。

（林業技術総合センター

普及・研修部）



研究レポート 高齢級スギの材質特性について

木材は、乾燥すると割れや狂いを生じますが、これは木材の縮み方が方向によって異なること（収縮異方性）や、樹体内の位置（髓付近、樹皮側、高さ）によって異なるためです。

本県のスギ人工林は、高齢級化が進んでいますが、中には間伐などが十分にされず、既に高齢級化してしまった林分も存在します。

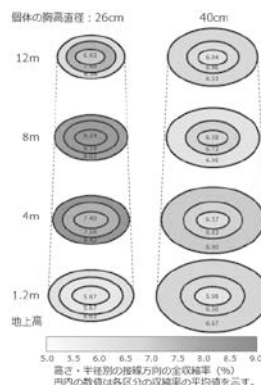
手入れの有無によって、林分構造や個体の成長量が変動するため、材としては材質や強度に関わる年輪幅や年輪構造などに差が生まれます。これにより、手入れの有無は木材の収縮異方性の違いにも影響する可能性があります。

そこで、本研究では、木材の性質を適切に理解し、正確な寸法の木材をより確実に生産するため、保育間伐以降初めて搬出・間伐を行った70年生のスギ林分から、成長の異なる個体を伐採して、収縮率の調査を行いました。

その結果、地上から4mと8mの高さにおいて、大径木よりも、「樹皮側の年輪が1mm以下の小径の劣勢木」の収縮率が大きい傾向にありました。更に、小径木を詳しく調査すると、地上より4～12mの高さでは、樹幹内部の髓付近と樹皮側で、収縮率が異なることが分かりました。

これらのことから、劣勢木では幅反りや曲がりなどがより大きく生じる可能性があり、このような材木の適正な製品寸法のためには、製材歩増し量（木材の収縮を見越した余分な製材）を多くとる必要があると考えられました。

以上のとおり、高齢級スギ林分において成長量の異なる個体で、材質の差が見られたことから、長伐期の林分の伐採の際には、小径木を残存せずに、収縮率を考慮して早期に利用することが望ましいと考えられます。



▲(上) 接線方向の収縮調査の様子
◀(左) 高さ・半径別の接線方向の収縮率、円内の数値は各区分の収縮率の平均値を示す。

（林業技術総合センター 試験研究部）

木材市況の動向

表1 各共販所別木材市況(令和7年6月)

樹種	材長 m	径 級 cm	価格(中値 単位: 円/㎡)			
			大衡	仙南	仙北	津山
スギ	3.00	14~16	—	—	—	—
		16~30	—	—	—	—
		20~32	13,300	12,000	—	13,500
	4.00	10~13直曲	9,100	—	9,060	9,000
		14~18直曲	9,100	—	10,500	9,200
		20~22	10,000	—	12,000	11,000
		24~34	13,300	10,000	12,500	13,000
		36~	13,000	10,000	11,000	11,000

資料: 宮城県森林組合連合会

概 況

素材動向

・素材平均価格は前年と比較し、やや低い水準で推移している。

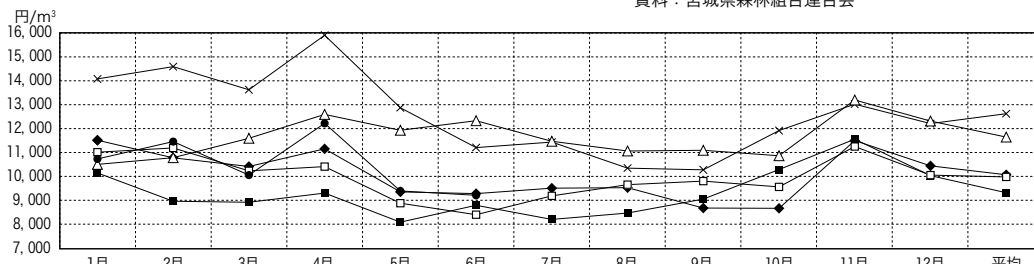


図1 素材価格の動き

素材: 県森連共販所
市況(平均価格)

特産市況の動向

表2 生しいたけ価格の市況(令和7年7月)

単位: 円/kg

年 次	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
令和2年	999	965	977	1,006	973	958	926	944	1,057	1,044	989	1,001
令和3年	1,046	954	916	879	892	862	843	921	939	921	948	1,035
令和4年	1,010	991	982	948	983	1,012	1,035	976	1,002	1,015	1,013	1,038
令和5年	1,031	968	967	966	996	1,038	1,019	996	1,011	1,016	1,006	1,068
令和6年	1,072	1,045	1,069	1,042	1,084	1,014	1,028	1,045	1,122	1,182	1,214	1,325
令和7年	1,286	1,239	1,217	1,182	1,137	1,128						

資料: 仙台中央卸売市場

概 況

・平成24年に原木しいたけ(露地)が出荷制限指示を受けたこと等に伴い、価格は大きく下落したが、平成26年次以降は900円~1,000円台と、震災前の平均価格を上回っている。
・令和7年の生しいたけ年平均の単価(円/kg)は前年より高い水準で推移しており、1月から前年度同月の価格を大きく上回り、6月には1,128円となった。

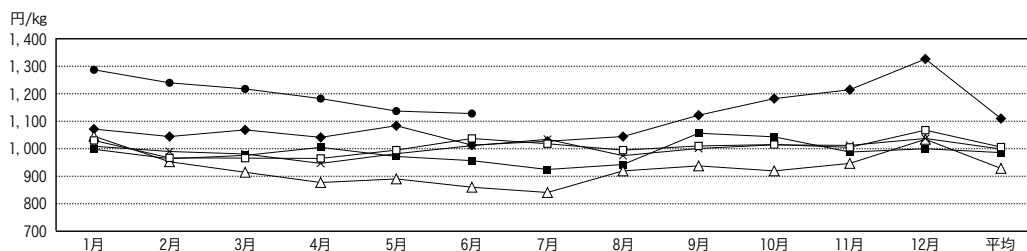


図2 生しいたけ価格の動向

表3 宮城県の新設住宅着工戸数(令和7年5月)

項 目	総 数	木造戸数	非木造戸数	木造率(%)
令和7年5月(戸)	788	565	223	71.7
令和6年5月(戸)	1,049	824	255	78.6
前年同月比(%)	75.1	68.6	87.5	—
令和6年5月~令和7年5月(戸)	16,676	12,470	4,206	74.8
令和5年5月~令和6年5月(戸)	17,074	12,148	4,926	71.1
前年同期比(%)	97.7	102.7	85.4	—

資料: 住宅着工統計

概 況

新設住宅着工戸数

・5月の新設住宅計は前年同月比で24.9%減少し、前年同期比では2.3%減となった。
・構造別では木造が前年同月比で31.4%減少し、前年同期比で2.7%増となり、木造率は前年同月比で6.9ポイント減の71.7%となった。



今回御紹介するのは、加美町にある株式会社林環産業で素材生産と造林を行う、日野上健二さん・亜矢子さん御夫婦です。健二さんは林環産業代表として「循環する」林業に取り組み、亜矢さんは高性能林業機械のオペレーターとして働いています。



株式会社林環産業
日野上健二さん／亜矢子さん

一本日はよろしくお願いします！

まず、現在の仕事について教えてくださいいただけますか？

日野上健二さん(以下、健二さん)：よろしくお願ひします。現在は主に、素材生産業を行っています。そのほかに、再造林も少しですが行っています。

日野上亜矢子さん(以下、亜矢子さん)：私は現場で素材生産に当たっていて、チェーンソーでの玉切りや、プロセッサのオペレーターとして造材などを行っています。

一御夫婦で現場に出て、林業に携わっているのは珍しいですね。このような体制のきっかけとしては、どのような経緯があったのでしょうか。

健二さん：元々両親も林業を仕事にしていたので、林業が身近な職業としてありました。それでほかの会社で伐採などを行い働いていたら、ある日息子に「お父さんの仕事って木を伐ってるんでしょ？植えないの？」と聞かれたことがあって。伐採して木材を生産することを「木を伐る＝環境に悪いこと」と思ったらしくて。それをきっかけに伐採と造林を一貫して行う林業に興味を持って、現在の会社を起業しました。

亜矢子さん：私は夫が会社を始めたとき、当初は一緒に伐採などの作業をするとは思ってなくて、最初は現場の雪かきだけやってほしいって言われて手伝ってたんです。それがいつの間にかチェーンソーを握って玉切り、プロセッサに乗って伐倒などやるようになっていました。

健二さん：最初は針葉樹ではなくて広葉樹林の伐採を主に行っていて、広葉樹林って落葉するので積雪が酷く、伐採が進まなかったんです。それでほかのことも頼んでいるうちに、手伝ってもらうことが増えていってしまいました。

亜矢子さん：些細なきっかけで重機まで乗るとは、完全に想定外でした。

一なるほど。仕事をする上でのこだわりや、心がけていることはありますか？

健二さん：一番は伐採跡地はできるだけきれいに保つことです。後から造林することを考えると、できるだけ山は綺麗にしておいた方がよくて、タンコロ(材の長さを揃える際に出る端材)もできるだけチップとして活用して、林地残材にならないようにしています。

亜矢子さん：安全な仕事ではないので、とにかくけがをしないこと。現在は2人だけの態勢なので、どの作業も安全第一で、というのはいつも話しています。

一仕事の上で楽しいこと、やりがいを感じることは？

健二さん：仕事が好きなのでなんでも楽しいです。

亜矢子さん：イグネ(屋敷林)の整備なんかは、喜んでいただける顔が直に見られるから嬉しいです。

健二さん：頼まれた仕事は基本的に受けるようにしています。その方がまた頼みたいと思ってもらえますか

ら。次につながるように仕事をすることも自分の中で大切にしていることです。

亜矢子さん：私は丸太の枝を綺麗に払えた時ですかね。現場で厳しく夫にチェックされるので、いつも緊張しています(笑)

一ありがとうございます。

最後に今後の抱負や、県内の林業に向けて期待することはありますか？

健二さん：「林環産業」という会社名は「循環型林業」から名付けたものです。現在は1ヘクタールのみですが、「伐ったら植える」をモットーに再造林面積を増やしていきたいです。県内の再造林率もさらに上がっていくといいですね。

亜矢子さん：ただ、その中でも利益は出さなくてはいけないので、再造林によって利益が出るような仕組みが作られると良いよね。

健二さん：確かに！それが今後の林業への期待かな。伐採と造林事業がセットでできるようになると良いですね。



作業中の様子

(上)プロセッサを操縦し、造材を行う亜矢子さん。
(下)チェーンソーで伐倒作業を行う健二さん。

国産材(生産販売)、木材チップ生産
製材業、伐出造林請負



宮城十條林産株式会社

代表取締役 亀山 武弘

本社 〒980-0871
仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
☎仙台(022)261-2151(代) FAX(022)261-2150
営業所 気仙沼・栗駒・飯野川・大和・白石・郡山・岩出山
工場 気仙沼・栗駒・白石・岩出山・鶯沢
関連会社 宮十運輸株式会社・宮十造園土木株式会社
株式会社宮城環境保全研究所

地域との共生 めぐるめぐみ



坂元植林株式会社

株式会社サカモト



坂元植林の家



ウッドデザイン賞 環境大臣賞



989-1601 宮城県柴田郡柴田町船岡中央1-9-12
Tel:0224-58-1100 Fax:0224-58-2252 web-sakamoto.co.jp

宮城県木材チップ協同組合

代表理事 亀山 武弘
専務理事 小澤 幸三
理事 亀山 征弘
理事 梶原 領太
監事 阿部 貢彦
監事 富澤 和彦

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
電話 022(261)2151 FAX 022(261)2150

宮城県木材チップ工業会

会長 米澤 光秀
副会長 永井 政雄
副会長 菅原 正義
副会長 佐藤 裕康
ほか理事一同

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
電話 022(261)2151

緑をはぐくみ水をつくる
奥地水源地域の森林整備

水源林造成事業

宮城県水源林造林協議会

〒980-0011
仙台市青葉区上杉2丁目4-46
宮城県森林組合会館内
TEL (022) 266-7121

一般財団法人 佐々君治山報恩会

代表理事 遊佐 勘左衛門

〒989-6165 大崎市古川十日町4番14号
TEL (0229) 22-1281
FAX (0229) 22-1281
E-mail: sasakimi@proof.ocn.ne.jp

- ☑ 製材機械
- ☑ プレカット機械 「木」に関連する機械の販売及びメンテナンス
- ☑ 農林業機械



筒井鋼機株式会社



(022)224-1261



(022)265-9231

〒980-0013

仙台市青葉区花京院二丁目2番22号



弊社WEB

「公益信託 農林中金森林再生基金」(農中森力基金)^{もりちから}等を通じ、森林の公益性発揮を目指した活動を積極的に支援していきます。

農林中央金庫 仙台支店

〒980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目2番16号 (JAビル宮城内) ☎022(711)7641(代)

私たちは森林づくりのプロフェッショナルです。ご相談はお近くの森林組合に！

JForest 宮城県森林組合連合会

仙台市青葉区上杉2丁目4-46
TEL022-225-5991 FAX022-225-5994

■優良みやぎ材の原木は

仙南地区木材センター 0224-51-9916

仙北地区木材センター 0229-72-1877

大衡綜合センター 022-345-2205

津山木材センター 0225-68-3038

■樹木の枝や根の有効利用は ウッドリサイクルセンター 022-345-6041

花粉症対策スギ挿木コンテナ苗木, 海岸防災林用抵抗性クロマツ苗木をはじめ,
林業用及び森林復旧用各種苗木のご用命・ご相談承ります。

宮城県農林種苗農業協同組合

〒980-0011 仙台市青葉区上杉二丁目4番46号
TEL (022) 222-3661 FAX (022) 222-3688

林業の^今を伝える月刊誌



GR 現代林業

A5判 80頁
年間購読料 5,400円(送料込み)



林業新知識

B5判 24頁
年間購読料 3,000円(送料込み)



山林

A5判 66頁
年間購読料 4,500円(送料込み)

図書の申込、問い合わせは

宮城県林業振興協会

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
宮城県仙台合同庁舎10階

TEL 022-301-7501
FAX 022-301-7502

スゴいぞ! みやぎの木のチカラ



木×SDGs

Wise use of woods from みやぎ!

県土の約6割を占める森林は、水源のかん養や山地災害の防止など多様な機能を担っており、その発揮が様々なSDGsの目標達成に貢献しております。また、製造時のCO2排出量が少なく、内部に炭素を蓄える木材を上手に利用すること（ワイズユーズ）は、温暖化防止など様々なSDGsに貢献し、そこから生み出される恵みを森林の再生に還元させることで持続可能な循環を作り出すことができます。

みやぎにはJAS製材品など優れた品質の木材や高度な加工技術があります。どうぞ、家づくりや街づくり等において「みやぎの木のチカラ」を実感してください。

私たちがお手伝いいたします。

宮城県木材協同組合の取組例

JAS製品の 利用拡大



宮城県産材 利用拡大



宮城県木材協同組合

理事長 米澤 光秀

tel: 022(233)2883 <https://miyagi-wood.jp>

令和7年度JAS構造材実証支援事業

森林は大切な資源です

森林整備を通して

美しい森林を未来に伝えます



一般社団法人 宮城県林業公社
(森林整備法人)

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL (022)275-9171 FAX (022)275-9172
<http://www.miyagi-rinkou.sakura.ne.jp>



緑の募金

にご協力ください!

秋の強調月間

9月1日～10月31日

年間目標額 **45,000,000円**

令和7年緑の募金運動スローガン

「緑の募金で進めよう SDGs」～森林を守る 森林を活かす～



みやぎ 2025
第48回 全国育樹祭
次世代へ みどりのかけ橋 森づくり

公益社団法人 宮城県緑化推進委員会

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17 宮城県仙台合同庁舎10階
TEL.022-301-7501 FAX.022-301-7502